

確率密度関数

確率密度関数 かくりみつどかんすう

偶然に起こる現象を取り扱う確率論では、一つ一つの現象（事象という）と対応した数値（確率変数）を定め、この確率変数 x がある区間 A ($a < x < b$) 内の値をとる確率 $P(a < x < b)$ を観測によって定義する。この確率 $P(a < x < b)$ が常に関数 $f(x)$ を変数 x の分布に対する確率密度関数、または確率分布という。

<登録年月>

1998年02月
